

J-STAGE に登録されている本学会論文誌のアクセス統計の解析

中野 英彦

兵庫県立大学大学院工学研究科物資系工学専攻(〒671-2280 姫路市書写 2167)

【緒言】

本学会の論文誌である The Journal of Computer Chemistry, Japan 誌（以後本誌という）は、本学会が前身の化学ソフトウェア学会と日本プログラム交換機構（JCPE）が合併して設立されると同時に 2002 年 3 月に第 1 巻第 1 号が創刊された。本誌は創刊号より通常の紙媒体で出版されるとともに、学会独自のサーバーによりオンライン公開するのと平行して、JST（独立行政法人科学技術振興機構）によって運用されている J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）にも搭載され公開されている。演者は本誌の電子出版責任者として、創刊時より学会のサーバーおよび J-STAGE によるオンライン公開の実務を担当している。現在は論文の投稿および審査に関しては従来どおり本学会が独自に行い、オンライン公開のみ J-STAGE に機能を利用しているが、今年度より J-STAGE のシステムに新たに投稿および審査システムの機能が追加されたのに伴い、本学会もこの投稿・審査システムを利用するべく準備作業が進行中である。

J-STAGE では、搭載されている学術論文についてオンラインによるアクセスの記録(ログ)により搭載論文の各月ごとの利用状況のデータを保存しており、当該誌の担当者に対してはパスワードを付与してそのデータが得られるよう配慮されている。今回はこのデータを解析して本誌の J-STAGE 上での利用状況を示し、論文投稿者の参考に供したい。

【方法】

J-STAGE から提供されるデータは、「アクセス統計レポート」と「加工済みログ」の 2 種類である。前者は、J-STAGE のシステムで取得したサーバーのログを、アクセス統計プログラムで集計した結果であり、「記事別レポート」、「国別レポート」、「ドメイン別レポート」などとして整理されており、表計算ソフトを利用して解析可能である。後者は、取得したサーバーのログを加工したものであり、「レポート」に比較して加工度は低く基本的には元のログ情報を保持している。しかし、解析を行うには独自のプログラムを開発する必要がある。

【結果】

要旨執筆時の最新データである 2005 年 7 月の記事別アクセス統計レポートによれば、その時点で搭載されている本誌の論文(第 1 巻 1 号から第 4 巻第 2 号までの計 66 論文)の全文 PDF ファイルのダウンロード回数は同月中 1 論文平均で 1.9 回であった。そのうち最高ダウンロード回数の論文では 16 回、最低回数の論文では 0 回であった。66 論文のうち英文の 30 論文の平均は 1.7 回、和文 36 論文の平均は 2.1 回であり、若干和文の方が多いが、これは、たまたま上記の最高 16 回の論文が和文であったためと考えられ、基本的には大差無いと考えられる。

国別アクセス統計によれば、日本 59%、韓国 10%、EU5%、オーストリア 4%、アメリカ 3%、不明 8%などである。

詳細な結果はポスターにて発表する。